

本棚 ぶらり

テーマ 動物



『少年と犬』

はせせいしゅう
馳星周／著

文藝春秋 2020年



2011年の東日本大震災から2016年の熊本地震までの間、釜石から熊本まで5年をかけて旅を続けた犬《多聞》の物語。

多聞は旅の中で様々なパートナーと出会う。生活のために後ろ暗い仕事をする男、窃盗団の男、仲の冷え切ってしまった夫婦、大きな秘密を抱える娼婦、大病を患う不器用な老人、心を閉ざした少年。彼らは皆、普通の生活をしたいと願いながらもそれを実現できず、孤独にもがいて苦しんでいる。そんな彼らに賢く誇り高い多聞は静かに寄り添い、束の間の共同生活の中で絆を深めていく。多聞が彼らの助けを必要としていたように、彼らもまた多聞の存在を必要としていたのだ。

『人の心を理解し、人に寄り添ってくれる。こんな動物は他にはいない。』(本文より抜粋)

犬とのかかわりが、人々に安らぎと勇気を与えてくれる一冊。

『動物たちの悲鳴が聞こえる それでも命を買いますか？ 続』

すぎもとあや
杉本彩／著

ワニ・プラス 2020年



2019年の動物愛護法の改正で、動物虐待が厳罰化された。この法改正に関わってきた著者が、改正のポイントを解説し、まだまだ問題点だらけの動物を取り巻く現状について切り込む。

殺処分ゼロのカラクリ、ペットショップでの悲劇、動物番組で人気の「保護犬」企画の実態等の動物愛護に関する問題点を指摘している。さらに、動物園や畜産動物、実験動物まで、様々な角度から指摘がなされている。

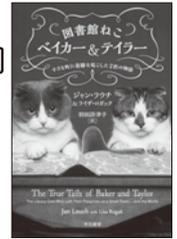
著者は、動物の幸せのため、動物本来の生態や要求、行動を尊重する考え方である「動物福祉(アニマルウェルフェア)」の実現、すなわち、動物の痛みを想像する力が必要だと説く。

その想像力を働かせて、動物と人間の共生関係について改めて考えてみてはいかがか。

『図書館ねこベイカー & テイラー 小さな町に奇跡を起こした2匹の物語』

ジャン・ラウチ／著
ライザ・ロガック／著
はたしづこ
羽田詩津子／訳

早川書房 2016年



「図書館は人々に喜びを与え、猫に喜びを与える。人々は入ってきてはこう言う。『猫がここに住んでいるんだよ』これ以上に素晴らしいことがあるだろうか？」本書の中で紹介されている、作家キャロル・ウィルボーンという言葉である。

小さな町の新しい図書館に「ネズミ捕獲係」として雇われたスコティッシュフォールドの「ベイカー」と「テイラー」。2匹はたちまち人気を呼び、図書館の貸出数を増加させただけでなく、書籍卸売会社から名前をもらったことで同社のマスコットとなり、やがてアメリカ中で知られるようになっていく。

長年2匹の「お母さん役」を務めた司書が、自身の人生と、町に住む人々を力づけてくれた猫と本への深い愛情をこめて綴ったエッセイ。

『保護犬・保護猫と 家族になるときに読む本』

ほごいぬ ほごねこ むか
保護犬・保護猫のお迎えサポート／著
メイツユニバーサルコンテンツ 2024年



保護犬・保護猫の飼育を検討している人に向けて、出会い方とお迎えの準備をはじめ、基礎知識やトレーニングなどについて写真やイラストを交えて分かりやすく紹介している。

飼育に必要な費用や道具の紹介だけでなく、保護動物との向き合い方、信頼の築き方も詳細に記載されている。

子猫や子犬を迎えたら、長く一緒に暮らしていくことや、晩年は介護をすることも考えておく必要がある。飼う方法だけでなく、犬・猫の生涯と自分や家族のライフプランを確認し、ライフステージが変化しても一緒に幸せに暮らせるのか、熟考することの重要性に気づかされる指南本。



ちょこっとゆかり文学クイズ

Q:犬好きとして知られるさいたま市ゆかりの歌人、大西民子の愛犬の名は？

- ①パセリ ②ローリエ ③バジル